

各文構造解説

この冊子の使い方

1つの文について、【英文】→【構造】→【解説】→【語句】の順で並んでいる。

1. 【英文】を音読する。構造と内容が理解できれば、次の【英文】に進んでよい。理解できなければ、
2. 【構造】を音読する。文の構造と、まとめりごとの訳（直訳）を確認する。さらに、必要に応じて、
3. 【解説】を読む。直訳を咀嚼して、要するにどういうことを言っているのか、内容の理解を試みる。
この時点で理解できなければ、「解答・解説」の日本語訳（意識）で内容を確認する。
4. 理解した内容を念頭に、構造と内容が理解できるまで、繰り返し【英文】と【構造】を音読する。
5. 【語句】を音読して、意味を確認する。

最後にもう一度、できれば二度三度、本文英文を、できるだけ速く、頭から意味をとりながら読むこと。

凡例および注意点

凡例：

① = 大問番号 ❶ = 段落番号 ❶ = 文番号

【構造】 = 【構造】

主 = 主語 動 = 動詞 目 = 目的語 補・名 = 補語となる名詞

副 = 副詞 関代 = 関係代名詞 過分 = 過去分詞 など

「 」 = 直前部分までの訳（直訳中心）

[] / { } / [[]] など = 注意を要する、句や節などの意味のまとめり

*❶ = 【解説】 とくに注意を要する箇所の指摘および解説

【暗例】 = 例文。暗唱できるようになることを強くお勧めする

() = 省略可、あるいは補足・別表現

[] = 直前の語句との入れ換え可

< > = 重要な用語、あるいは構文・イディオム

【語句】 = 【語句】

[|] = 発音。左側が発音記号。右側が発音時の目安となるカタカナ表記で、ゴシック体はアクセント

⇒ = 派生語・反意語 など

注意：

【構造】と【解説】は、既出表現や構造が平易な英文については、簡略化、あるいは省略することがある

1

① ① The United Nations estimates that by 2050, 66% of human beings will live in cities.

構造 **主** The United Nations 「国連は」 **動** estimates 「見積もる」 **目** [that 「～ということ」 **副** by 2050, 「2050年までに」 **主** 66% of human beings 「人間の66%が」 **動** will live 「住むだろう」 **副** in cities], 「都市に」

語句 United Nations 「国際連合」、estimate [éstəmeit | エステイメイト] **動** 「見積もる」、human [hjú:mən | ヒューマン] being **名** 「人間」

② Such a high percentage may suggest that it is usual for humans to live in this way.

構造 **主** Such a high percentage 「このような高い割合は」 **動** may suggest 「示唆するかもしれない」 **目** [that 「～ということ」 **形主** ¹it 「(訳さない)」 is usual for humans 「人間にとってふつうである」 **真主** to live 「住むことは」 **副** in this way]. 「この方法で」

*1: 形式主語の it. 真主語は to live 以降 (不定詞の名詞的用法)。to live 直前の (for) humans はこの不定詞 (準動詞) の意味上の主語。

語句 percentage [pə:rséntidʒ | パーセンテージ] **名** 「割合」、suggest [sʌgdʒést | サグジュエスト] **動** 「提案する、示唆する」、(in) this way 「この方法で、このように」

③ However, the growth of cities is a comparatively recent development in human history.

構造 **副** However, 「しかし」 **主** the growth of cities 「都市の成長は」 **動** is 「～である」 **補・名** a comparatively recent development 「比較的最近の発展」 in human history. 「人間の歴史の中で」

語句 growth [gróuθ | グロウトウ] **名** 「成長」、comparatively [kəmpəreɪtɪvli | コムバラテヴァリ] **副** 「比較的」、recent [ri:snt | リースント] **形** 「最近の」、development [dɪvələpmənt | デヴェロプメント] **名** 「発展、開発」

④ Modern humans (that is, humans we would recognize as anatomically similar to us) have been around for about 200,000 years.

構造 **主** [Modern humans 「現代人は」 (that is, 「つまり」 humans **関代** ¹ we would recognize as anatomically similar to us)] 「私たちが、私たちと解剖学的に似ているとして認識するだろう人間は」 **動** have been around 「存在してきた」 **副** for about 200,000 years. 「約20万年間」

*1: 関係代名詞の目的格の省略。関係代名詞とは、「文」を、先行詞を中心とした「名詞(節)」に変換する which や that などのこと。もとの「文」は、We would recognize humans as anatomically similar to us. 「私たちはその人間を解剖学的に私たちに似ていると認識するだろう。」これを、目的語 humans を先行詞とする「名詞(節)」にすると、humans (that [which] we would recognize as anatomically similar to us) 「(解剖学的に私たちに似ているとして認識するだろう) 人間」となる。関係代名詞の目的格は省略される。この節があくまで名詞であることを、何度も音読して体得すること。

語句 modern [máðərn | マドゥン] **形** 「現代の」、that is 「つまり」、recognize O as C 「OをCとして認識する」(※この as は前置詞なのだが、Cを目的格補語として、形容詞が来ることがある)、

anatomically [ænətámikli | アナタミクリ] **副** 「解剖学的に」、similar [símələr | スイミラ] **形** 「似ている」

⑤ For the vast majority of that time, they have had a hunter-gatherer existence.

構造 **副** For the vast majority of that time, 「その期間の圧倒的多数の間」 **主** they **動** have had **目** a hunter-gatherer existence. 「彼らは狩猟採集民の存在を有してきた」

語句 vast [vást | ヴァスト] **形** 「広大な、膨大な」、majority [máedʒɔ:rəti | マジョーリティ] **名** 「大多数、過半数」、hunter-gatherer [hʌntə gæðəər | ハンタ ギャダラ] **名** 「狩猟採集民」(hunter 「狩人」、gatherer 「採集人」、existence [ɪgzɪstəns | イグズィステンス] **名** 「存在」

② ① The development of cities only began following the agricultural revolution, which took place in different parts of the world from about 12,000 years ago.

構造 **主** The development of cities 「都市の発展は」 **副** only 「やっと」 **動** began 「始まった」 **前** ¹following 「～に続いて」 **目** ²[the agricultural revolution, 「農業革命」 **関代** ³which took place 「それは起こった」 **副** in different parts of the world 「世界のさまざまなところで」 **副** from about 12,000 years ago]. 「およそ12,000年前から」

*1: following は、ここでは前置詞とした。もともとは follow 「追う、続く」の意味の動詞で、ここでは〈分詞構文〉とも判断できる。ただ、使用頻度が高く、後に目的語である名詞が続くことから、前置詞と判断しても問題ない。似たような語に including 「～などの」や regarding 「～について」などがある。

*2: 前置詞に続く名詞を〈前置詞の目的語〉という。ここでは、前置詞 following の目的語の中心は the agricultural revolution で、これがコンマ以降によって説明を加えられている形。

*3: 関係代名詞の〈継続用法(非制限用法)〉の〈コンマ+ which)〉。固有名詞や読者が理解できないだろう名詞は、コンマに続けて説明が加えられることがある。ここでは、その説明が関係代名詞によっているということ。

語句 following [fólouɪŋ | ファロウイング] **前** 「～に続いて」、agricultural [ægrɪkʌltʃərəl | アグリカルチュラウ] **形** 「農業の」⇒ agriculture [ægrɪkʌltʃə | アグリカルチャ] **名** 「農業」、revolution [revəlú:ʃən | レヴォリューション] **名** 「革命」、take place 「起こる」

② The fundamental change involved in this was that rather than wandering from place to place in search of food (following animal migrations and the fertility patterns of plants), humans started to grow crops and breed animals in a particular location.

構造 **主** [The fundamental change **過分** ¹involved in this] 「このことに関する根本的な変化は」 **動** was 「～だった」 **補・名** ²[**接** that 「～ということ」 **副** ³{rather than wandering from place to place in search of food (following animal migrations and the fertility patterns of plants)}, 「食料を探して場所から場所へと歩き回ること(動物の移動や植物がよく実る分布を追い求めること)よりはむしろ」 **主** humans 「人間は」 **動** started **目** ⁴to grow crops and breed animals 「穀物を育て始め、そして動物を飼い始めた」 **副** in a particular location], 「特定の場所で」

*1: 名詞 The fundamental change に、〈過去分詞〉involved (in this) 「(このことに) 関係がある」が後ろから修飾(後置修飾)して

説明を加えている。これ全体で名詞(句)であることを理解すること。
*2: 文末まで続く長い that 節。文法的には補語となる名詞節なので that の前で区切っているが、実際に読むときには that のあとで一区切り入れて、続く文に集中するとよい。

*3: A rather than B 「BよりはむしろA」の変化形。rather than B, Aの形で、Aがthat節中の主節(humans started ～)となっている。AとBは同等のものがくるのが基本だが、ここでのBにあたる wandering は動名詞と解釈してよい。つまり、Aが節であるのに対し、Bは副詞句と解釈する。なお、このBにあたる動名詞の部分に動詞の原形(原形不定詞)がくることもある。

*4: start to do 「～し始める」において、to不定詞は動詞 start の目的語で、よって名詞的用法となる(「～することを始める」の意味)。ここでは grow と breed が並列になるので、to不定詞を目的語として分けて解釈したが、実際には、start to do でまとめて動詞(句)と考えた方が実践的である。

語句 fundamental [fʌndəməntəl | ファンダメンタウ] **形** 「根本的な」、(be) involved in ～ 「～に関係がある、巻き込まれる」、A rather [ræðər | ラダ] than B 「BというよりむしろA」、wander [wándər | ワァンダ] **動** 「歩き回る」、in search [sə:rtʃ | サーチ] of ～ 「～を探して」、follow [fólou | ファロウ] **動** 「追いかける」、migration [maɪgréiʃən | マイグレイション] **名** 「(動物などの)移動、渡り」、fertility [fərtɪləti | ファーティリティ] **名** 「肥沃、生産力」、pattern [péətn | パタン] **名** 「模様、分布」、crop [kráp | クラブ] **名** 「穀物」、breed [brɪ:d | ブリード] **動** 「繁殖させる、飼う」、particular [pərtɪkjələr | パティキュラ] **形** 「特定の、一定の」、location [loukəiʃən | ロウケイション] **名** 「位置、場所」

③ Gradually, humans began living in separate families, rather than together in large tribal groups.

構造 **副** Gradually, 「次第に」 **主** humans **動** began living 「人間は生活し始めた」 **副** ¹[in separate families, 「別々の家族で」 **rather than together in large tribal groups**]. 「大きな部族集団で一緒にというよりむしろ」

*1: A rather than B. Aは副詞句の in separate families、Bも副詞句の together in large tribal groups。

語句 gradually [gráedʒuəli | グラジュアリ] **副** 「次第に」、separate [séperət | セバラト] **形** 「別々の」、together [təgəðər | トゥゲダ] **副** 「一緒に」、tribal [tráibəl | トゥライバウ] **形** 「部族の」⇒ tribe [tráib | トゥライブ] **名** 「部族」

③ ① 12,000 years is not a long time for humans to adapt to a new way of life.

構造 **主** 12,000 years **動** ¹is not **補・名** a long time 「12,000年は長い時間ではない」 **for humans 「人間にとって」** ²to adapt to a new way of life. 「新しい生活様式に適応するためには」

*1: 主語が複数形なのに動詞が is になっているのは、12,000 years を1つの期間としてとらえているから。補語 a long time に不定冠詞 a がついていることからわかる。

*2: to adapt は、humans を意味上の主語とする to 不定詞。「～するために」という意味で解釈してよい。

語句 adapt [ədəpt | アダプト] **動** 「適応する」、way of life 「生活様式」

② Our feelings and instincts are suited to a hunter-gatherer lifestyle, rather than a more settled agricultural-industrial one.

構造 **主** Our feelings and instincts 「私たちの感情や本能は」 **動** ¹are suited to 「～に適する」 **目** [a hunter-gatherer lifestyle, 「狩猟採集民の生活様式に」 **rather than a more settled agricultural-industrial** ²one]. 「より定住的で農工的な生活様式よりもむしろ」

*1: be suited を動詞、to 以降を副詞句と解釈してもよいが、ここでは be suited to までを動詞、そのあとを目的語と解釈した。

*2: one は lifestyle を意味する代名詞。A rather than B の対応を考えればわかる。

語句 instinct [ɪnstɪkt | インスティンクト] **名** 「本能」、be suited [sú:tid | スーティド] to ～ 「～に適する」、settled [sétləd | セトウド] **形** 「定住的な」⇒ settle [sétl | セトウ] **動** 「定住する、落ち着く」、industrial [ɪndʌstriəl | インダストリアウ] **形** 「工業の」

③ There are many material advantages to living in a city, such as a ready supply of food and water, safety from wild animals, access to a large range of medical services, and convenient transport systems.

構造 There are **主** ¹many material advantages 「多くの物質的な利点がある」 **to living in a city, 「都市に住むことへの」** [such as a ready supply of food and water, safety from wild animals, access to a large range of medical services, and convenient transport systems]. 「食料や水があらかじめ用意されていること、野生動物からの安全、広範な医療サービスを受けられること、そして便利な交通機関システムのような」

*1: 〈(there is 構文) は倒置構文で、動詞 is の後ろの部分が主語。主語の中心は many material advantages で、such as のあとに4つの例が並列されている。

語句 material [mətiəriəl | マティエリアウ] **形** 「物質的な」 **名** 「物質」⇒ materially [mətiəriəli | マティエリアリ] **副** 「物質的に」、advantage [ədʌvántidʒ | アドヴァンテージ] **名** 「利点、優位性」、supply [sʌpláɪ | サプライ] **名** 「供給」、access [ækkses | アクセス] **名** 「接近手段」、range [réindʒ | レインジ] **名** 「範囲」、medical [médikəl | メディカウ] **形** 「医療の」、transport [trænspsɔ:rt | トウランスポート] **名** 「輸送、交通(機関)、移動手段」

④ But urban conditions produce emotional problems that our hunter-gatherer ancestors were less likely to have, problems such as depression, loneliness, and the stress that comes from living in an overcrowded environment.

構造 **接** But 「しかし」 **主** urban conditions **動** produce 「都会の環境は生み出す」 **目** [emotional problems **関代** that our hunter-gatherer ancestors were less likely to have], 「私たちの狩猟採集民である祖先が持ちそうになかった情緒的な問題」 ¹problems such as depression, loneliness, and [the stress **関代** that comes from living in an overcrowded environment]. 「つまり、落ち込み、孤独、そして人が多すぎる環境に住むことから生じるストレスのような問題」

*1: 直前の中心的な名詞 emotional problems をコンマのあとで具体的に説明している。このとき、コンマの前後は内容的に〈同格〉となり、「つまり」などの意味を補うと理解しやすい。

語句 urban [úr:bən | アーバン] **形** 「都市の」、condition [kəndɪʃən | コンディション] **名** 「環境、状況、条件」、produce [prədʒʌs | プロデュース] **動** 「生み出す」⇒ production [prədʌkʃən | プロダクション] **名** 「生産」、emotional [imóʃənl | イモウシヨナウ] **形** 「情緒的な、感情の」、ancestor [ænsəstər |